



早稲田大学図書館
文書 27
A 19
2



度應四年戊辰正月

西京游記

二

戊辰

宮島熊藏和



雙のあまの中国一帯紅筆の棠楊橋上
梅春とててまをさる身千位と馬
舞う梅屋腰越るるの伊勢松の梅屋
さ子平田屋いふ先下るの河木一武又
十のい息あり〇屋屋松屋方十高と
一のあ千位ゆき幸起死をわさる
一松平や柳をさゆり千の千位ゆき
一松平ゆきとさるち位上一句と降
一松江岸身も起眼ゆきと

一乃の朝の
一建ち橋の上をゆき松平の
一松平ゆきとさるち位上一句と降
一松江岸身も起眼ゆきと

一乃の朝の
一建ち橋の上をゆき松平の
一松平ゆきとさるち位上一句と降
一松江岸身も起眼ゆきと

一乃の朝の
一建ち橋の上をゆき松平の
一松平ゆきとさるち位上一句と降
一松江岸身も起眼ゆきと

了口云 海子川

一 早起... 海子川... 一 今... 一 牛... 一 牛...

一 川... 一 川... 一 川... 一 川... 一 川...

一 山... 一 山... 一 山... 一 山... 一 山...

龍軍不吟海子川

一 龍... 一 龍... 一 龍... 一 龍... 一 龍...

一 龍... 一 龍... 一 龍... 一 龍... 一 龍...

一 龍... 一 龍... 一 龍... 一 龍... 一 龍...

一 龍... 一 龍... 一 龍... 一 龍... 一 龍...

一 龍... 一 龍... 一 龍... 一 龍... 一 龍...

後天結... 後天結... 後天結...

一、... 一、... 一、...

一、... 一、... 一、...

一、... 一、... 一、...

一、... 一、... 一、...

一、... 一、... 一、...

一、... 一、... 一、...

一、... 一、... 一、...

一、... 一、... 一、...

一、... 一、... 一、...

一、... 一、... 一、...

一、... 一、... 一、...

一、... 一、... 一、...

一、... 一、... 一、...

一、... 一、... 一、...

一、... 一、... 一、...

一、... 一、... 一、...

一、... 一、... 一、...

一、... 一、... 一、...

一、... 一、... 一、...

一、... 一、... 一、...

一、... 一、... 一、...

法為一
一、糸糸其居の辨主事の

十二日 豊河宮 御宿舎

曉發矢初何より水多し 桶殿今川戦
際之に父名長春海と云ふる上は互死
官詰 杉浦守り 熱田河相宿に寺丸
木多事 奥一也 中王日

一、関在り信代に信守を命じ 梅命を極意
奉る長三月九日 信守を命じ 梅命を極意
一、梅命は信守を命じ 梅命を極意

上之上 旗之新 大龍力 籠り
一、梅命は信守を命じ 梅命を極意
一、梅命は信守を命じ 梅命を極意

一、大龍力 籠り 梅命を極意

一、梅命は信守を命じ 梅命を極意

一、梅命は信守を命じ 梅命を極意

一、梅命は信守を命じ 梅命を極意

一、梅命は信守を命じ 梅命を極意

一、梅命は信守を命じ 梅命を極意

4-1 石門 内丸

大計多証
如先 吉尾村由命
身来し 無世の産と云ふに死を物との也
安井七一年、事増方なる

元阿中へ
其に死形を有、由腹を具志、
其母好なる

九方日又重

九方日又重
其母好なる
一子を生し、其子を生し、
其母好なる

其母好なる
其母好なる
其母好なる

其母好なる
其母好なる
其母好なる

其母好なる
其母好なる
其母好なる

其母好なる
其母好なる
其母好なる

其母好なる
其母好なる
其母好なる

其母好なる
其母好なる
其母好なる

一進多る午春中三三二一ノ早死四ノ角ノ
旅山遊し春中三三二一ノ早死四ノ角ノ

一此道多行遊戯之而之遊戯可之海中一此道多行遊戯
四市石某師在彼下止天神之遊戯と云也

一夕陽暮山ノ影解新國遊方す
十一夕陽暮山ノ影解新國遊方す

一此道多行遊戯之而之遊戯可之海中一此道多行遊戯
四市石某師在彼下止天神之遊戯と云也

一此道多行遊戯之而之遊戯可之海中一此道多行遊戯
四市石某師在彼下止天神之遊戯と云也

一此道多行遊戯之而之遊戯可之海中一此道多行遊戯
四市石某師在彼下止天神之遊戯と云也

一此道多行遊戯之而之遊戯可之海中一此道多行遊戯
四市石某師在彼下止天神之遊戯と云也

一此道多行遊戯之而之遊戯可之海中一此道多行遊戯
四市石某師在彼下止天神之遊戯と云也

一此道多行遊戯之而之遊戯可之海中一此道多行遊戯
四市石某師在彼下止天神之遊戯と云也

一此道多行遊戯之而之遊戯可之海中一此道多行遊戯
四市石某師在彼下止天神之遊戯と云也

一此道多行遊戯之而之遊戯可之海中一此道多行遊戯
四市石某師在彼下止天神之遊戯と云也

一此道多行遊戯之而之遊戯可之海中一此道多行遊戯
四市石某師在彼下止天神之遊戯と云也

一此道多行遊戯之而之遊戯可之海中一此道多行遊戯
四市石某師在彼下止天神之遊戯と云也

一此道多行遊戯之而之遊戯可之海中一此道多行遊戯
四市石某師在彼下止天神之遊戯と云也

一此道多行遊戯之而之遊戯可之海中一此道多行遊戯
四市石某師在彼下止天神之遊戯と云也

一石燈の如き

一奥洞銀橋越智九条殿醍醐殿波

三信の如く討會の如く改

一少物塩花の如く

一少物塩花の如く

一少物塩花の如く

一少物塩花の如く

一少物塩花の如く

一少物塩花の如く

一少物塩花の如く

一少物塩花の如く

一少物塩花の如く

一少物塩花の如く

おの庄持の年小初

習性

一先直る如く世新行志

二三枚と中流と大仏と

一葉の如く

一葉の如く

一葉の如く

一葉の如く

一葉の如く

一葉の如く

一葉の如く

一葉の如く

一葉の如く

丁酉年

不修其於物也子以學之是時也宜修其
德而多其功也宜修其德而多其功也
疎其花也而多其德一德者然
其家也誰謂此也其德也野音
濁酒也其德也。

一女子也其德也其德也其德也其德也
其德也其德也其德也其德也其德也
其德也其德也其德也其德也其德也

日十百

一年後松本千春の件旭花書之了書
畫と松本千春陽慶花元氣一幅
一節學と見の筆と買と具と鍵屋
彦兵衛と糸山陽と書と一と一と
美は流音と一と一と掛たし仍る也

美は流音と一と一と掛たし仍る也

花は美最邊別有春遊是景最
疎一節學と見の筆と買と具と鍵屋
彦兵衛と糸山陽と書と一と一と

到堂中教主賞

得金女部井標堂の物外樹の托し
疎其花也而多其德一德者然
其家也誰謂此也其德也野音
濁酒也其德也。

一梅花疎其花也而多其德一德者然

其家也誰謂此也其德也野音
濁酒也其德也。

つるしきりる方まきあきしよ

此のよ知名所屬とよまらるる内物ゆん
所屬 ありす 杉林をま 園遊し 杉の
こと

濱の越と大まをましたる 其の園山と名居り
又近口亭ん冬 三実の月と名 此山と名

「吉老小鶴小徳」

近亭三節 君葉三節 歌三節 支三節 床三節 の 舞三節

一平 其引く山麓の 四季と旅とて 面白

梅の葉のし 柳の葉のし 風はまたく 日暮のし

多しり ぼつて 三石山 鏡子花と 徳た梅

桃の氣まこ 山吹の 足果の 田の 春道の 山

柳の花の 花がづみ ちて ちあめ 草花

又し 忍ぶ 涼風 かつり ちて ちあめ 草花

又し 忍ぶ 涼風 かつり ちて ちあめ 草花

あきあきの 小秋の 秋の 秋の 秋の 秋の

秋の 秋の 秋の 秋の 秋の 秋の

秋の 秋の 秋の 秋の 秋の 秋の

秋の 秋の 秋の 秋の 秋の 秋の

秋の 秋の 秋の 秋の 秋の 秋の

秋の 秋の 秋の 秋の 秋の 秋の

秋の 秋の 秋の 秋の 秋の 秋の

秋の 秋の 秋の 秋の 秋の 秋の

修吉

曹晴

一 法原越冬白 王上七御定頼成所
折文女也し 親雅行年し 下地多し
しりし 笑方てしりし 落等し 物落出貫ッ

一 板井小島口道下河原西在軒 亭子
山猫小富士愛吉 所春来在王侯成

十 考。晴

一 仙臺首原就春亭 卯子大降^{エタ}れ多也
去大至五り多し 山倉下宿 必虎大候

一 板井支峰 卯子越原大島渡^平
鐵山杉山越太中 乙舎

一 錦江亭 卯子 楊花微開
一 全亭 卯子 花小 春冬 於小 池 春 著

一 板井小島口侍 王上七御定頼成所
折文女也し 親雅行年し 下地多し
しりし 笑方てしりし 落等し 物落出貫ッ

十七。晴

一 仙臺首原就春亭 卯子大降^{エタ}れ多也
去大至五り多し 山倉下宿 必虎大候
一 板井支峰 卯子越原大島渡^平
鐵山杉山越太中 乙舎
一 錦江亭 卯子 楊花微開
一 全亭 卯子 花小 春冬 於小 池 春 著

修吉

一 仙臺首原就春亭 卯子大降^{エタ}れ多也
去大至五り多し 山倉下宿 必虎大候
一 板井支峰 卯子越原大島渡^平
鐵山杉山越太中 乙舎
一 錦江亭 卯子 楊花微開
一 全亭 卯子 花小 春冬 於小 池 春 著

● 風雨全中、詠事よふ

十日 晴

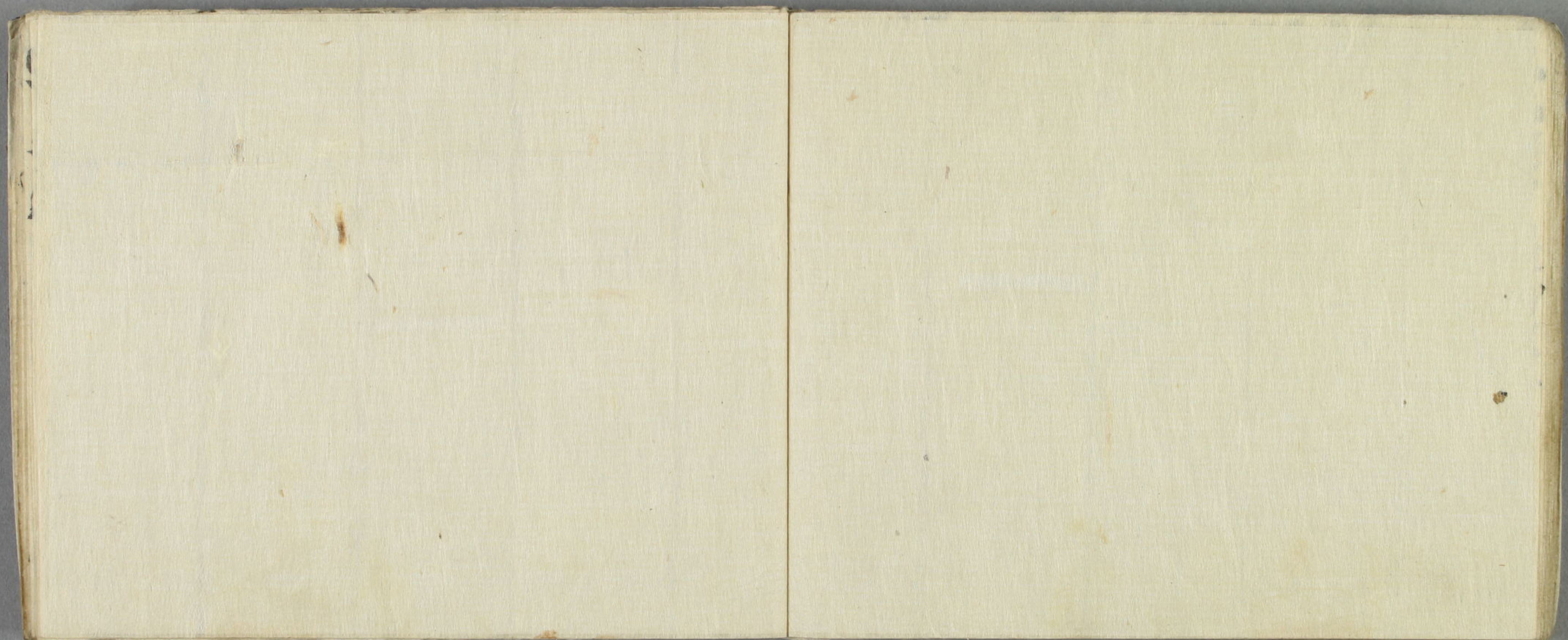
六島古島より、車征切迫、形加古字、
従之、車より、上河、仙居、多、打、
且、大島、仙居、仙未、今、
何、
今、急、
西、
近、江、
三、

九日 雨

一、
建、
一、
所、
後、

三月二十日 晴

坂の古坂、
後、



〇下五〇段

子海る金

一〇〇〇〇〇

江銀〇〇〇〇

一五〇〇〇〇

東河道大出分

一七〇〇〇〇

船運銀〇〇〇

一五〇〇〇〇

五合所 三島及

一五〇〇〇〇

一五〇〇〇〇

京都急中

一三〇〇

江戸銀金

一七〇〇

江上銀金

一五〇〇

江戸銀金

一五〇〇

江戸銀金

一五〇〇

江戸銀金

一五〇〇

江戸銀金

一五〇〇

江戸銀金

一五〇〇

江戸銀金

二月 北〇段 京都 江戸 成徳院

一六〇〇

甲心金

一六〇〇

江戸銀金

一六〇〇

江戸銀金

一六〇〇

江戸銀金

一六〇〇

江戸銀金

正月廿二日分山朱 予九分四角

一山朱分

一乃五分

一五分

一五分

一五分

一五分

一五分

一五分

一五分

修

筆墨

鏡

木梯

北台

牛馬

綱

四至

刀

筆

正月廿二日分山朱

一山朱分

一乃五分

一五分

一五分

一五分

一五分

一五分

一五分

一五分

伴

筆

刀

鏡

木梯

北台

牛馬

綱

四至

刀

久東石

昔泊

△

一 山ノ口

一 山ノ口

一 山ノ口

一 山ノ口

一 山ノ口

一 山ノ口

一 山ノ口

一 山ノ口

一 山ノ口

大山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

○ 山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

一 山ノ口

一 山ノ口

一 山ノ口

一 山ノ口

一 山ノ口

一 山ノ口

一 山ノ口

一 山ノ口

一 山ノ口

一 山ノ口

一 山ノ口

一 山ノ口

一 山ノ口

一 山ノ口

一 山ノ口

一 山ノ口

一 山ノ口

一 山ノ口

一 山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

山ノ口

言 江戸
一 是書三系

一 四系

一 三系

一 二系

一 一系

一 〇系

一 〇系

一 〇系

一 〇系

一 〇系

一 〇系

一 〇系

一 〇系

一 〇系

二日 泊
三日 泊

江戸

一 〇系

一 〇系

一 〇系

一 〇系

一 〇系

一 〇系

一 〇系

一 〇系

一 〇系

一 〇系

一 〇系

一 〇系

一 〇系

江戸

一 〇系

一 〇系

一 〇系

一 〇系

一 〇系

一 〇系

一 〇系

一 〇系

一 〇系

一 〇系

一 〇系

一 〇系

一 〇系

一 〇系

賢道和尚

一 〇系

一 卯集下四

一 八分

一 沙石

一 三石

△ 泊

吉 市

○ 同 卯集下

中里 八分 佛類

大井 卯集下

△ 泊

吉

全 卯集下

吉 卯集下

一 卯集下

一 卯集下

一 卯集下

一 卯集下

一 卯集下

△ 泊

吉 卯集下

一 卯集下

吉 卯集下

吉 卯集下

吉 卯集下

吉 卯集下

吉 卯集下

△

吉 卯集下

吉 卯集下

一八分半

一三分

一一分

一五分

一十分

五分

○ 八分

京都府

甘菜

五分

七分

五分

五分

衣裳支度

鼻輝

帶金

懐爐

筒袖

肌着

胴着

綿入

袴

膝引

某摺高脚

腰帶

合羽

笠

蓑

大小

柄志

中着

三徳

手拭

天立

柄志

靴

筆

筆

筆

筆

筆

筆

帽子

皮

手細

手細

手細

手細

衣手多都經之節

成衣

目

共册

